

「やっと出発だ！」

夏休みも中盤に差し掛かった 8 月 1 日の朝、ぼくたちは親に見送られながら市の代表としてアメリカ、コロラド州への事業が開始した。

6 月 16 日、市内 5 校から集まった 19 人での顔合わせがあり、派遣事業に参加するにあたっての説明をしていただいた。そこから、5 回の研修会を通し、基本的な英会話、お金の計算の仕方や文化交流のため「ソーラン節」の練習などを行っていた。だが、国外で日本語が通じないこともあり、行きのバスや飛行機では、ほどよい緊張感とワクワク感が入り乱れていた。デンバー国際空港までは約 11 時間。長い！

そして無事に入国審査ができて、全員でコロラド州デンバーにつくことができた。デンバーはコロラド州の州都で、日本でいう県庁所在地みたいところだ。

1 日目は着いたらまだ夜。夜ごはんをたくさん食べると移動の疲れもふっきれ、ホテルに併設されているプールとジムに行った。プールには他のお客さんもいてスペースを空けていると、ぼくたちが遊んでいる遊びに入ってきた。そこで感じたことがある。フレンドリーだなって思った。日本では、知らない人がグループに入ることは少ないのに、輪の中に入り、すぐに仲良くなることができる力があるというのは日本人との大きな違いを感じる場面だった。

ホテルでの 2 泊を終え、3 日目。今日はコロラド・スプリングス市への移動の日。そして、ホストファミリーとの対面の日だ。デンバーからは 1 時間 30 分ほどの所にあるコロラド州第 2 の都市。自然に囲まれていて観光資源が豊富にある場所だ。バスから景色を見ていると高層ビルがあったデンバーからだんだん草原が広がっている場所へと景色が移り変わっていった。どこまでも続く草原に目が引きつけられた。「アメリカって大きいんだなー」とふと感じる場面になった。

さて、コロラド・スプリングス市へ着き、全ホストファミリーが広がっている。ネームプレートを見つけて、今からみんなの前で英語で自己紹介だ。緊張が一気にわきあがった。無事終え、他の人の自己紹介を聞いていると、視界が急に暗くなり、足がふらついてきた。ぼくはホストファミリーとの初対面の日に倒れてしまった。すぐに会話はできるようになったが、体調が優れない中、この日は夕方まで寝ていた。起きて、ホストファミリーの好きな野球の試合観戦に行くことになった。ぼくの体調を考えていただき、いつ具合が悪くなくても帰宅して休養をとれる体制をとっていただいた。初日から、ホストファミリーには迷惑をかけてしまったと思っている。

4 日目は文化交流の日。私たちは富士吉田市の代表として富士吉田市を英語で紹介し、日本の伝統的な踊り、「ソーラン節」を披露した。最後、踊り終わると大きな拍手がわき上がった。とても達成感を感じている。

そこからは順調に日程が進みホストファミリーとの別れの日が近づいて行った。アメリカの生活に少し慣れ始めたときの別れは悲しく、もっといたい気持ちがこみ上げてきた。別れの間この 8 日間の生活を振り返ってみた。そうすると全ての活動には支えてくれる人がいた。特にホストファミリーには毎日のように迷惑をかけた。だがそれをあたたかい気持ちで受け入れてくれたことに感謝している。ホストファミリーに感謝の気持ちを伝えているとたまっていた感情がどっこみ上げてきた。その気持ちを抑えながらさよならして、日本へと帰国した。支えてくれたのはアメリカの人たちだけではなく、引率してくれた先生や市の方、旅行会社の方、そして行ってこいと言ってくれた親に感謝して、多くの発見をして大きく成長することができた姿を、胸を張ってみせることができ、事業を終えることができた。